

物理探査をささえる若い人材に対する体験学習について

On the experience study for young people who supports geophysical exploration

西谷 忠師 [1]; 筒井 智樹 [2]; 坂中 伸也 [3]

Tadashi Nishitani[1]; Tomoki Tsutsui[2]; Shin'ya Sakanaka[3]

[1] 秋田大・工学資源・地球資源; [2] 秋田大, 工学資源; [3] 秋田大・工学資源・地球資源

[1] Inst. of Applied Earth Sci., Faculty of Engrg & Res Science, Akita Univ; [2] Akita Univ.; [3] Engineering and Resource Sci., Akita Univ

<http://dips11.akita-u.ac.jp/>

物理探査をより発展させるためには、新しい理論や手法の開発が必須である。しかし、これ以上に重要なことは人材を育成することである。新しい発想や画期的な物理探査の手法を生み出すためには、過去にとらわれない若い人材が欠かせない。現在、理科系離れが大きな問題となっており、劣悪な環境下での調査や事故の例が悪いイメージを与えている。フィールド調査や物理探査への興味が失われていると感じられる。若い人、特に小中学生に物理探査のおもしろさや可能性を知ってもらい、将来物理探査を支える人材として育てることが重要な課題である。物理現象や探査に興味を持ってもらうために、物理探査の楽しさ、おもしろさを宣伝し、理解してもらうことが大切である。その方法として簡単な探査装置を作り、実際に探査を行う体験学習教室が効果的であると考えられる。秋田大学ではこの考えに基づき、若い人たちに物理探査に興味を持ってもらい、将来の探査技術者になることを期待して体験学習教室を実施してきた。この体験学習教室は、単に原理を理解することだけが最終目標ではない。自分の作った装置を用いて実際に探査を行い、目的とする物を見つけることが可能であることを身をもって体験してもらうことを目指している。実際に体験学習教室で取り上げた題材、参加した生徒の反応や効果を紹介する。